モノづくりが成長の原動力

変化に立ち遅れず
既存技術高め市場開拓

近江鍛工社長
坂口　康一 氏

―2018年の見通しは。

「さほど大きな変化はないとみている。仕事量が増えている一方で、人手不足は深刻な状況にあるため、この先、さらに良くなるかは分からない。原材料価格の上昇が見え隠れし、また世界情勢など企業活動以外のリスクがどう影響するのかも気がかりだ」

―人材活用がカギを握りそうです。

「機械化や自動化も必要だが、当社のような重厚長大型産業ではなかなか難しい。働き方改革も中小製造業では簡単なことではない。限られた人材をいかに活用していくかに尽きる。そこには、高齢者や女性の活用も視野にある。一人ひとりの状況は異なるので、互いに話し合いを重ね工夫を凝らすとともに、仕事以外の満足感を与えることも忘れてはいけないだろう」

―設備更新も進めていますか。

「17年から老朽化設備の更新を行っている。12月にはドイツ・SMS製のローリングマシンを核とした新たなラインが稼働した。製造工程の効率化やリードタイム短縮が期待される。設備更新は現状の維持・発展が目的で、精度向上だけでなく、省エネルギーやコスト削減などの二次的な効果も生まれる。常に意識しておくことが大切だ。18年も継続して取り組む。年間の投資額は約10億円を見込む」

―18年の注力課題は。

「変化に立ち遅れないこと。それには、技術を磨いておかなければならない。他社にない技術を身につけることも大事だが既存技術を高め、これを核に応用展開して新たな市場開拓につなげる。さらに、事業承継を視野に、将来を見据えた社内・研究開発体制づくりにも着手したい。ただ、急な変化は混乱を招く恐れがある。段階を踏んで進めていく」

新たに導入したリングロール生産ライン

海外事業を拡大
NOx低減用途伸ばす

アクアシステム社長
木村　泰始 氏

―2017―18年にかけての事業の状況、見通しはいかがでしょうか。

「市場規模からするとフルラインアップする必要があると考えて、徐々にポンプの製品ラインアップを増やしてきた。ドラムポンプでは手動、エア、電動の駆動方式をそろえ、各種溶剤、オイルなどに対応するようにした。ダイヤフラムポンプも手動、電動をそろえている。昨年に創立60周年を迎え、61年目がスタートした。17年度は前期比約2割増の約8億2000万円と見ている。18年度は売上高10億円の可能性が出てきた」

―海外事業はいかがですか。

「海外事業の売上高比率は5%程度なので、今期は2倍の売上高約1億円を目指したい。中国では、日系企業を中心に販売先を拡大していきたい。また、日系企業で働いた経験を生かして、日系企業と同レベルの製品を供給する現地企業があり、そうした企業を対象に販路を広げる。タイ、ベトナムには販売会社がある。今後、ベトナムは製造も手がける可能性はある」

―工場拡張の取り組みは。

「既に一部の土地は取得しているが、須越工場（滋賀県彦根市）の敷地を広げ、分散している倉庫を1カ所にまとめたい。20年頃までに順次、整備を進める可能性もある」

―今後、伸ばす商品は。

「ディーゼルエンジンを搭載したトラックの排ガス中の窒素酸化物（NOx）を低減する高品位尿素水『アドブルー』がある。トラックにアドブルー専用のタンクがあり、当社はアドブルー注入用ポンプや周辺機器を扱っている。アドブルーは普及しているので、今後は液体の販路だけでなく機械工具ルートでも、販売が見込めるのではないか」

アドブルー用ハンディポンプ、ガンノズル

中国新工場本格稼働へ
途上国への展開も重要に

大阪ウェルディング工業社長
魚谷　徹生 氏

―足元の景況感は。

「景気動向に左右されにくい業種で、比較的安定している。2017年も約420社と取引があり、増加傾向にある。楽観視しすぎかもしれないが、堅調に推移するとみている」

―中国の新工場が間もなく稼働します。

「上海から江蘇省常熟市へ移転、2月の旧正月明けに本格稼働を予定する。中国進出から18年が経過し設備も更新時期にきており、溶射機械を中心に増強した。人員の問題などがあり、稼働後に以前の状況に戻るには少し時間はかかる。これが懸念材料だ。業種的には、リチウムイオン電池材料の製造装置関連や建設機械のほか、新規として燃料電池関係に勢いがある」

―インドも順調です。

「17年に南部のタミル・ナドゥ州コインバトール県に工場を立ち上げ、中古機械販売と一部モノづくりも始めた。溶射は技術者不足がネックで、企業内転勤で養成する。本社で研修し技能を身につけた後、インドで実際の業務に携わってもらう。溶射事業の立ち上げはその頃をにらむ。研修では業務もこなしてもらうので、人手不足対策という側面もある。本格的に機能するのはまだ先だが、拠点が設けられたのは大きい。アジア展開への布石は打てており、先を見据えた基盤づくりは進んでいる」

―新たな取り組みなど成長戦略は。

「溶射技術は確立されているが、入り込む余地はある。いかに見つけ出せるかだ。中国では、機械の長寿命化需要の創出と日本では一般化した技術の活用で発展した。今後の成長には新規分野開拓に加え、他の途上国への展開も重要になる。国内市場には限界があり、大きなマーケットに打って出て成長につなげる。そうしたチャンスをつかむには備えが必要で、そこに55年にわたる技術やノウハウの蓄積が生きてくる」

2月に本格稼働する中国新工場（江蘇省常熟市）

OHMI PRESS WORKS AND FORGING CO.,LTD.

国内最大級の1万5000トン自由鍛造プレス 稼働中

あらゆる産業の進化をサポートする鍛造技術。

これまでも、これからもベーシック

近江鍛工は
未来の美しい地球を目指し
環境問題に
取り組んでいます。

ISO 9001 1999.1月　ISO 14001 2001.2月　JIS Q 9100 2007.3月　OHSAS SYSTEM 2014.3月
認証取得

近江鍛工株式会社
URL:http://www.omitanko.co.jp/
本社工場　滋賀県大津市月輪1丁目4番6号　〒520-2152
TEL.077(545)3281 FAX.077(545)8802
滋賀・信楽工場／長崎工場／U.S.A Office

アドブルーの“コト”ならお任せください
管理・移送・運用の課題解決いたします!

AdBlue® アドブルー　アクアシステムはドイツ自動車工業会より商標使用権の認証を受けた正式メーカーです

IBCタンクから車両・重機へ直接補充
ジョッキの移し替え不要で直接、車両アドブルータンクへ補充が可能になります。また補充時のコンタミ・吹きこぼしも防ぎます

ピットへ戻らず現場で補充
手動・電動（100V）・エア式・バッテリー（12V・24V）をラインナップし、現場に合わせた補充方法をご提案します

持ち上げ補充不要！
重たいバックインボックスを持ち上げる際の危険で労力がかかる作業を改善します。吹きこぼし等のムダもなくなります
（100V式・電池式）

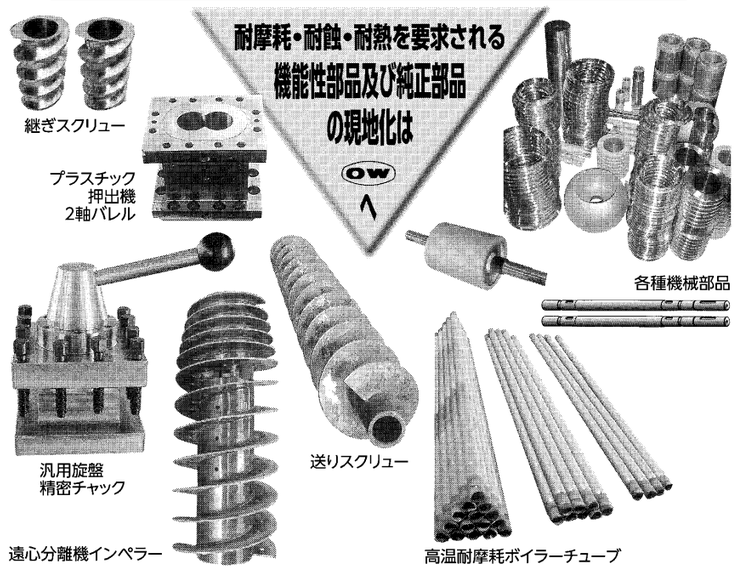
測る“コト”で液体管理
アドブルーの使用量や使用状況を計測・管理することで運用改善による効率向上が可能になります。
ご要望に応じた管理方法をご提案します

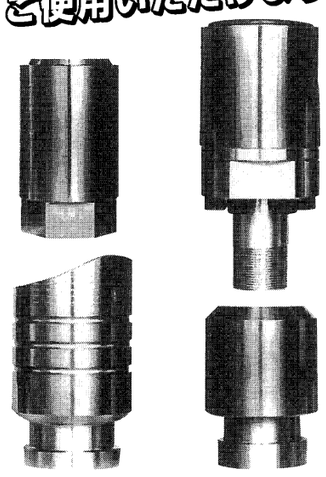
※樹脂ドラム缶・IBCタンク・バックインボックスは別売

アドブルー専用カタログ無料プレゼント中！是非お問合せください！

AQUA SYSTEM CO.,LTD. アクアシステム株式会社
〒522-0081 滋賀県彦根市京町1−3−1 K1ビル 201号
E-mail:aqua@aqsys.co.jp
電話：0749-23-9123
FAX：0749-23-9122

日本工場、中国工場に続き、
待望のインド工場をオープン!!
機械加工受託生産
機械部品の受託製作
ご希望の品質・コストで対応!!
品質は日本水準を厳守　100%独資だから出来るのです
弊社中国工場から日本、海外拠点へ直送
中間マージン無しの直販価格
日本製と同じ様にご使用いただけます。





溶射チップ SKD/窒化チップ 各種取扱

大阪ウェルディング工業株式会社
本社　〒567-0001 大阪府茨木市安威2−20−11
関東工場　〒332-0003 埼玉県川口市東領家5−6−6
滋賀工場　〒528-0052 滋賀県甲賀市水口町宇川1426−10(宇川工業団地)
TEL.0748-62-3771～2　FAX.0748-62-8417
http://www.osakawel.co.jp

田島威尔登机械科技（江蘇）有限公司　独資工場
Tiandao Weierdeng Machinerry
中国江蘇省常熟市虞山高新技術産業園陽光大道55号
Changshu High Tech Jndustrial Park No.55
Yangguang Road, Changshu, Jiangsu, China.

東営田島金属表面改質有限公司　独資工場
中国山東省東営市東営経済開発区黄河路北東四路西
TEL.001-010-86-546-7760607　FAX.001-010-86-546-7760608

（合弁）レーマンテクニロジーインディア
代表取締役　マニガンダン氏 携帯090−6058−8297